

授業科目名	劇場プロデュース実習 1	担当教員	尾西 教彰 近藤 のぞみ 井原 麗奈 大野 はな恵
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年 第 4 クォーター		
講義内容	この科目では、舞台設備のある文化施設で実際に働き、現場の経験を積むことにより、劇場運営に関わる基礎的な職業能力の修得を目的としている。 劇場での仕事は多岐にわたり、機構・設備の維持管理、自主事業の企画制作、利用者（地域のアマチュアから全国規模のプロアーティストまで）への対応、公演当日の会場表方、舞台の安全を担保する裏方など、様々な能力・技術が求められ、各専門家が関わっている。劇場現場での実務体験を通じて、劇場の仕組みを理解し、企画制作、広報・宣伝、地域との関わりなど、劇場・音楽堂等のソフト運営における基礎となる要素を体得し、地域における劇場の役割について理解を深める。		
到達目標	①劇場の初歩的な業務を実際に行うことができる。 ②劇場の運営組織、機構・設備、業務の基本について理解し、説明できる。 ③来場者や舞台関係者と、前向きなコミュニケーションができる。 ④劇場の地域における役割について実例を挙げて説明できる。		
授業計画	舞台設備のある文化施設で約 2 週間の臨地実務実習を行う。 実習前の事前学習として、実習施設や関連事項を調査し、実習計画書を作成、必要に応じて専任教員、実習指導者、学生で面談等を行う。 実習中は、実習指導者のもと、実際の劇場制作業務に従事し、専門スタッフによるレクチャーを受けることによって、劇場にとってのミッションを理解し、劇場運営の基本を習得する。 中間時点及び最終日には、学生による報告会を実施するほか、最終日には劇場関係者等との意見交換会を実施する。 事後学習として、学生は完了報告書を作成し、担当教員指導の下、学内実習報告会で発表を行い、劇場制作業務の実践への理解を深める。		
事前・事後学習	参加する学生は必ず事前研修を受け、事後に実習成果の完了報告書を作成し、学内実習報告会において発表を行うこと。		
テキスト	特になし。		

参考文献	適宜指示する。
成績評価 の 基 準	実習の態度・日誌（70%）、実習報告レポート・プレゼン（30%）。
履修上の注意 履修要件	全日程に出席できることを参加条件とする。 1日の実働時間は8時間（休憩1時間を含む）を基本とする。 劇場現場の性格上、業務の必要に応じて変則時間となる場合がある。 ※具体的なスケジュールは、劇場担当スタッフと相談の上、後日確定する。
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	実習受入先の受け入れ人数を越える履修希望者があった場合は、志望理由書を元を選考して履修者を決定する。 尾西（n_onishi*stdat.at-hyogo.ac.jp 近藤（nozomi_kondo*stdat.at-hyogo.ac.jp 井原（i.rena*stdat.at-hyogo.ac.jp））〔＊を@に変更〕